

令和2年度『幼・小接続期の教育・保育研修』実施報告

令和2年10月5日（月）、静岡県総合教育センターを会場に『幼・小接続期の教育・保育研修』を開催しました。

「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を視点とした幼・小接続期の理解を深める」、「小学校1年生の様子を理解するとともに、自園・所の保育を振り返り、今後の保育に活かそうとする意欲をもつ」を目標に行いました。

幼稚園を始め、保育所やこども園、小学校、特別支援学校の教職員、行政関係者71名が参加しました。

【講演】 「幼小接続期の教育・保育～コロナ禍での実践から学ぶ～」

講師：静岡大学教育学部 教授 田宮 縁 氏

はじめに、大学が配信しているオンデマンド・ビデオを視聴したり、講師の先生が訪問した園での様子を伺ったりすることで、コロナ禍における学校等の状況を知ることができました。さらに、執筆した生活科教師用指導書を基に小学校の先生に伝えたいことを具体的に教えていただくとともに、幼児教育への示唆として、小学校における学習活動とポイントを押さえながら、数量や図形への関心・感覚を身に付けるためにどのように保育を進めていったらよいか示していただきました。



(参加者の声)

- ・ 小学校での事例を出し、幼小で共通している部分を示し、体験させることの大切さや保育の中にどのように取り入れていけばよいか具体的に分かりやすく教えていただいた。今後の保育で実践していきたい。
- ・ 今年度、年長の担任をしている。10月に入りアプローチカリキュラムが始まり、自分でも悩んでいたところである。今日の講演を聞いて、今の保育の中に取り入れていけそうなことがたくさん分かりよかった。

【講義・演習】 「小学校1年生の学びから幼児教育を考える」

入門期の国語・算数の教科書から指導の内容や方法を学ぶとともに、児童の立場になって、ひらがなの学習や数の基本について体験し、1年生の学びにつなげるための保育について考えました。



- ・ 小学校で実際にどんなことをどのように指導しているか知ることができ、自分が受け持つ子供たちの卒園後の姿を想像することができた。「学習」というと難しく感じるが、生活や遊びの中で学ぶことが多く、それが小学校につながっているの、今までより意識しながら保育していきたい。
- ・ 実際に授業の様子を具体的に教えていただいたことで、保育の中でゲームや言葉遊びなど、もっと積極的に取り入れていこうと思った。その中で自然に数や量、大きさ、言葉など、学んでいくことが分かった。

【グループワーク】 「講演・講義・演習から自分の（保育・業務・授業…）を考える」

研修のまとめとして、午前中の田宮先生の講演や午後の講義・演習をもとに、これまでの自分の実践を振り返り、今後の取組を整理するためにKPT法を用い、視覚化しました。その後、まとめたものをもとに発表し、意見交換を行いました。

（参加者の声）

- ・ KPT 法では、具体的に書いてみることで改めて自分を振り返ることができ、面白いと思った。実践につなげやすいので職場で取り組んでみたいと思う。
- ・ グループワークで他の市町の先生方と話した時間は、本日の研修の振り返りにもつながった。
- ・ これまでの実践や今後取り組みたいことを文字にすることで自分の考えが整理された。グループで意見を出し合い、周りの先生の取り入れたいことを聞くことができ、とても参考となった。

